

教育研究上の目的（神奈川大学大学院外国語学研究科規程より抜粋）

外国語学研究科

本研究科の博士前期課程は、世界諸地域の言語を核に、言語・文学・文化・歴史を幅広く理解し、国内・外国に向けて研究を発信し、国際社会の中で活躍できる教養ある有益な人材の育成を目的とする。

本研究科の博士後期課程は、博士前期課程で得た知識をもとに、研究能力をさらに向上させ、優れた教育・研究活動を行うことのできる研究者及び社会人の育成を目的とする。

欧米言語文化専攻

欧米言語文化専攻の博士前期課程は、高度な学習への需要に対応し、学部教育で得た欧米の言語文化もしくは中国言語文化に関する知識や外国語能力を高め、専門的職業に必要な思考力・応用力・行動力を身に付けて、多様化する社会を支えることのできる人材の育成を目的とする。

欧米言語文化専攻の博士後期課程は、創造性豊かな高度の研究能力と、優れた学識・企画力・公表力・自立力とを備えて、研究・教育機関の中核を担う研究者や、多様化する社会を支えることのできる職業人の育成を目的とする。

中国言語文化専攻

中国言語文化専攻の博士前期課程は、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの専門分野に関して、創造的研究を行う能力を有する研究者の育成、及び、今後の知識基盤社会に必要とされる高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人の育成を目的とする。

中国言語文化専攻の博士後期課程は、大学等の教育・研究機関に所属する研究者の育成を主要な目的とし、同時に、高度な専門的知識・研究能力を活用して一般企業、ジャーナリズム、行政機関等の業務に従事する能力を有した人材の育成を目的とする。

教育目標

外国語学研究科 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科博士前期課程では、社会がますますグローバル化国際化するなかで、諸言語の修得と諸外国の言語文化の研究を通して、自国の文化を国の内外に発信し、国際的な舞台で活躍できる能力や素養を育成することを究極の目標としています。

本課程ではまた、中学・高等学校から大学にいたる教育機関での外国語教育を担う人材の育成あるいは再教育を行うことも目標としています。社会の国際化に対応し、さまざま領域で必要とされる外国語の高い運用能力と異なる文化を理解し交流できるコミュニケーション能力を育成し、諸外国との交流促進、関係強化に寄与しうる能力を育成することを教育目標として定めます。

外国語学研究科 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科博士後期課程では、欧米・中国をはじめとする世界の諸言語と文化に関する深い研究に基づいた教育を行います。高い外国語の運用能力を有し、日本の言語と文化に通暁し、欧米・中国などの異文化に対する深い教養・学殖を身につけた、国際社会で活躍できる人材、研究者を育成します。また、中学・高等学校から大学にいたる教育機関での外国語教育を担う人材の育成や再教育も行います。諸言語・諸文化の研究・学修を通して、言語と文化についての深い学殖を涵養し、国際化する社会のニーズに応えられる多様な人材の輩出につとめることを教育目標として定めます。

外国語学研究科 欧米言語文化専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本専攻の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科欧米言語文化専攻博士前期課程では、言語、言語教育、文化、文学、歴史という、人間の根幹に関わる問いを探究することを目標とします。この、人間とはどのようなものであったのか、どのようなものであるのか、そしてどのようなものであるべきなのかに関わる考察は、さ

さまざまな価値観がせめぎあう現代社会の中で、ますますその重要性を増していると考えます。

本課程では、履修者が人間の本質に関わるこの考察を、英語教育・英語学、英米文化・英米文学、スペイン語圏言語文化、比較言語文化という領域において、高度の外国語能力を生かし、広い視野のもとに先人のさまざまな考察を参照しながら、主体的に研究して、独自の認識に至ることを教育目標として定めます。

外国語学研究科 欧米言語文化専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本専攻の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科欧米言語文化専攻博士後期課程は、前期課程で得た言語、言語教育、文化、文学、歴史についての研究成果をさらに発展させることを目標とします。

人間の本質を探求するこれらの分野は、さまざまな価値観がせめぎあう国際社会の中で、互いを尊重し共生してゆくために、ますます重要性を増していると言えます。そこで本課程では、高度の外国語能力を生かし、主体的な研究を通して、人間性や社会に対する深い洞察力や分析力を養ってゆきます。また、前期課程で培った知識と能力を生かし、それをますます発展させること、そして主体的かつ独創的、さらに国際的に通用する研究や活動を行ううる人材を培うことを教育目標として定めます。

外国語学研究科 中国言語文化専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科中国言語文化専攻博士前期課程では、中国の言語、社会、歴史、文化に関する高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人の育成を教育の最終の目標としています。

近年東アジアを含む国際情勢が目まぐるしく変化しています。経済大国へと急成長してきた中国との関係は、日本にとってきわめて重要になっています。政治、経済、社会のどの分野においても、良好な日中関係の構築は世界平和のためにも大きな役割を果たすことになるでしょう。いま中国の社会、文化や歴史に深い理解をもち、中国語によるコミュニケーション能力を有する人材が求められています。

本課程では、学部で学んだ専門知識を充実させ、中国語の運用能力をさらに伸ばし、企業や行政、教育機関に必要な人材の育成を目指し、中国、東アジアの言語・社会・歴史・文化に関する専門的知識と研究能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

外国語学研究科 中国言語文化専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科中国言語文化専攻博士後期課程では、中国の言語、社会、歴史、文化に関する高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人、創造的研究を行う能力をもつ研究者の育成を教育の最終の目標としています。

近年東アジアを含む国際情勢が目まぐるしく変化しています。経済大国へと急成長してきた中国との関係は、日本にとってきわめて重要になっています。政治、経済、社会のどの分野においても、良好な日中関係の構築は世界平和のためにも大きな役割を果たすことになるでしょう。いま中国の社会、文化や歴史に深い理解をもち、中国語を含む高度な外国語によるコミュニケーション能力を有する人材が求められています。

本課程では、学部や博士前期課程で学んだ専門知識を充実させ、中国語の運用能力をさらに伸ばし、企業、行政及び教育・研究機関に必要な有為な人材の育成を目指し、体系的、理論的な知識を教授し、中国、東アジアの言語・社会・歴史・文化に関する専門的知識と研究能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）

外国語学研究科 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程では、各専攻におけるカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士（文学）の学位が授与されます。

1. 欧米言語文化・中国言語文化専攻が対象とする専門分野に関する専門的な知識や能力

2. 専門的な職業を担うのに必要な応用力, 思考力, 行動力
3. 産業・教育・研究分野の要請にこたえ, 国際社会で活躍できる力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程では, 世界諸地域の言語を核に, 言語・文学・文化・歴史を幅広く理解し, 国際性を身につけ, 外国語で知識や教養を発信でき, 国際社会の中で活躍できる高度な専門的な職業を担う人材を育成するため, 以下のような教育課程を編成しています。

1. 欧米の言語や, 中国語に秀で, 国際社会に通用する専門的知識, コミュニケーション能力, 幅広い教養等を培うための教育課程を編成する。
2. 学士課程教育の教育内容を基礎とし, 専門性と継続性に配慮したうえで, 社会の変化に対応し知的基盤を得るための教育課程を編成する。
3. 現代社会における人材需要や大学院進学希望者の進学需要を踏まえて, 欧米言語文化専攻では英語教育・英語学, 英米文化・英米文学, スペイン語圏言語文化, 比較言語文化の4領域, 中国言語文化専攻では1領域から構成する。
4. 理論的知識や能力を基礎として, 実際にそれらを活用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけるための教育課程を編成する。
5. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで, 教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士前期課程では, 以下のような学力ならびに意欲を有する人を受け入れます。

1. 本学外国語学部各学科を卒業した人
2. 他大学において当該専門学科を卒業した人
3. 上記1. と2. と同等の学力, 基礎知識を備えた人
4. 上記1. 2. 3. のいずれかに加えて, 研究に意欲を持っている人

外国語学研究所 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程では, 各専攻におけるカリキュラムにおいて所定の単位を修得し, 提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は, 以下の能力を身につけていると判断され, 博士（文学）の学位が授与されます。

1. 研究機関や教育機関の中核を担う研究者や職業人としての高度な能力
2. 自立して研究活動を行うための豊かな学識, 企画力, 公表力
3. 社会の多様な分野で活躍する高度な能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程では, 創造性豊かで自立して研究できる能力を持つ国際性を身につけた人材を育成するため, 以下のような教育課程を編成しています。

1. 研究活動の基盤となる豊かな学識を培い, 表現能力, 発信力, コミュニケーション能力等を高める科目群
2. 企画力, 発表力, 自立的な研究能力等を養うための指導と機会
3. 自ら研究課題を設定し研究活動を実施するための指導と機会
4. 学内外での多様な研究活動の場における研鑽
5. 教育者として教育能力を高め, 経験を積むTA(ティーチング・アシスタント)制度の用意

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士後期課程では, 以下のような学力ならびに意欲を有する人を受け入れます。

1. 本研究科博士前期課程を修了した人
2. 他大学院や研究所において当該専門分野を修めた人
3. 上記1. と2. と同等の学力, 専門的知識を備えた人

4. 上記1. 2. 3. のいずれかに加えて、研究に意欲を持っている人

欧米言語文化専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程において、英語教育・英語学、英米文化・英米文学、スペイン語圏言語文化、比較言語文化の各コースが定める授業を受け、所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者について、以下の特定の能力及び一般的な思考力・応用力・行動力を身につけていると判断し、修士（文学）の学位が授与されます。

1. 言語、言語教育、文化、文学、歴史のいずれか、もしくは複数の分野における専門的知識
2. 専攻分野における独創的な研究能力
3. 研究に必要な高度の外国語能力
4. 修得した高度の知識や技術を、職業人として社会で活用する能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、①言語、言語教育、文化、文学、歴史のいずれか、もしくは複数の分野における専門的知識、②専攻分野における独創的な研究能力、③研究に必要な高度の外国語能力、の3つを総合的に修得するため、以下のような教育課程を編成しています。

1. 上記のいずれか、もしくは複数の分野について、専門的理解を深め、広い視野を獲得することができる講義科目群
2. 研究テーマについて独創的研究を進めるために、指導教授から年次を越えて指導を受けられる演習科目群
3. 国際的な研究の動向や進捗状況を知り、国際社会に通用する知識や教養を得るための講義・演習における外国語文献の活用
4. 思考力・応用力・行動力を身につけるための神奈川大学欧米言語文化学会をはじめとする定期的な研究発表の場、研究を掲載する紀要の刊行
5. 教育者としての能力を高める、経験を積むTA(ティーチング・アシスタント)制度を用意

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本専攻博士前期課程では、①言語、言語教育、文化、文学、歴史のいずれか、もしくは複数の分野における広範かつ高度な専門的知識、②専攻分野における独創的な研究能力、③研究に必要な高度の外国語能力、の3つを総合的に修得させる教育目標を踏まえ、以下の3条件を満たす学生を受け入れます。

1. 専門分野の基礎学力や能力を備えた人
2. 研究への意欲を持っている人
3. 外国語の文献が読める人

欧米言語文化専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程において、英語教育・英語学、英米文化・英米文学、スペイン語圏言語文化、比較言語文化の各コースが定める授業を受け、所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者について、以下の特定の能力及び一般的な思考力・応用力・行動力を身につけていると判断し、博士（文学）の学位が授与されます。

1. 言語、言語教育、文化、文学、歴史のいずれか、もしくは複数の分野における広範かつ高度な専門的知識
2. 専攻分野における独創的かつ先端的な研究能力
3. 研究に必要な高度の外国語能力
4. 修得した高度の知識や技術を職業人として社会で活用する力や、研究を外国に向けて発信できる能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、①言語、言語教育、文化、文学、歴史のいずれか、あるいは複数の分野における広範かつ

高度な専門的知識，②専攻分野における独創的かつ先端的な研究能力，③研究に必要な高度の外国語能力，の3つを総合的に修得するため，以下のような教育課程を編成しています。

1. 上記のいずれか，もしくは複数の専門分野について，広範かつ高度の理解がえられる講義科目群
2. 研究テーマについて独創的かつ先端的な研究を行うために，指導教授から年次を越えて指導を受けられる演習科目群
3. 世界の研究の動向や進捗状況を知り，国際社会に通用する知識や教養を得るための講義・演習における外国語文献の活用
4. 思考力・応用力・行動力を磨くための定期的な研究発表の場，研究を掲載する紀要の刊行
5. 教育者としての能力を高め，経験を積むTA(ティーチング・アシスタント)制度を用意

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本専攻博士後期課程では，①言語，言語教育，文化，文学，歴史のいずれか，もしくは複数の分野における広範かつ，より高度な専門的知識，②専攻分野における独創的・先端的で国際的に通用する研究能力，③研究に必要な高度の外国語能力，の3つを総合的に修得させるという教育目標を踏まえて，以下の3条件を満たす学生を受け入れます。

1. 本研究科博士前期課程を修了した人，又は同等の高度な知識を備えた人
2. 研究への意欲を持っている人
3. 外国語の研究文献を自在に読め，研究に応用できる人

中国言語文化専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し，提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は，以下の能力のいずれかを身につけていると判断され，修士（文学）の学位が授与されます。

1. 博士後期課程へ進学し，教育・研究機関に所属する研究者となりうる教育・研究能力の基礎を身につけている
2. 企業における中国，あるいはその他の東アジアと関わる職務，あるいは教育機関の行政職における専門化する業務内容に対応できる，中国，東アジアの言語・文化・社会に関する専門的知識と研究能力を身につけている

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では，中国の「言語」，「歴史・文化」の二つの系に即して，それぞれの専門分野に関する専門的知識，研究能力，語学運用能力を養うため，以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 演習科目では，個別の専門領域における研究能力を身につけるため，指導教授による指導が行われる。
2. 講義科目では，個別の専門領域における専門的知識・外国語運用能力・国際的な研究動向を体系的に学ぶため，学生は講義科目を選択的に履修することが求められる。また，中国以外の東アジア地域の言語，歴史，文化に関する専門的知識を身につけるための関連科目も準備される。
3. 前二者を通じて身につけた専門的知識，研究能力の成果を修了年次に修士学位論文として提出する。修士学位論文作成に際しては，学生は複数の教員による論文指導を受け，公正な審査の下で，ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけているかを判定される。
4. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで，教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本専攻博士前期課程では，研究者，あるいは高度な専門的職業人を志し，中国の言語，歴史・文化に関する専門的知識，研究能力を身につける準備のある学生を受け入れます。具体的には，以下の条件を満たしていることが求められます。

1. 中国語の十分な運用能力を有している人
2. 一定の英語の読解能力を有している人

3. 各自の志望する専門分野における専門的知識の基礎を有している人

4. 研究者,あるいは高度職業専門人たり得る資質と意欲を有している人

受け入れる学生としては, 本学外国語学部の中国語学科, 国際文化交流学科の卒業生以外にも, 上記4条件を満たす他学部, 他大学の卒業生, また留学生にも門戸を開いています。

中国言語文化専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力のいずれかを身につけていると判断され、博士（文学）の学位が授与されます。

1. 中国の「言語」、又は「歴史・文化」のいずれかの分野において、大学等の教育・研究機関の研究者として十分なレベルの、自立した研究活動を行う能力、論文作成能力、及び研究成果を公表するためのプレゼンテーション能力を身につけている
2. 一般企業、ジャーナリズム、行政機関等の業務において、中国、あるいはその他の東アジアと関わる高度に専門化した業務内容に対応できる、中国、東アジアの言語・文化・社会に関する高度な専門的知識と研究能力を身につけている

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野における研究者、あるいは専門的な知識を活用する職業人として相応の高度な専門的知識、研究能力、中国語運用能力を養うため、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 演習科目では、個別の専門領域における研究者として十分な研究能力を身につけるための指導教授による指導が行われる。
2. 講義科目では、専門領域について体系的に学ぶため、講義科目を選択的に履修することが求められる。
3. 前二者を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を修了年次に博士学位論文として提出する。博士学位論文の提出に際しては、複数の教員による論文指導を受け、外部審査員を含めた審査の下で、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけているかを判定される。
4. TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本専攻博士後期課程では、大学等の教育・研究機関における研究者、あるいは高度な専門的知識を活用した職業に従事することを志し、それにふさわしい中国の言語、歴史・文化に関する専門的知識、研究能力を身につける準備のある学生を受け入れます。具体的には、以下の条件を満たしていることが求められます。

1. 中国語の高度な読解能力（現代語、近代語及び古代語）を有している人
2. 各自の志望する専門分野における専門的知識の基礎を有しており、本専攻博士前期課程、あるいは他大学大学院において志望する専門分野の修士学位論文を作成しており、志望専門分野における高度な専門的知識、及び研究能力の基礎を有していることが認められる人

履修案内

外国語を核に、言語・文学・文化・歴史を幅広く理解し、国内・外国に向けて研究を発信することができる人材育成をめざします。本研究科は、欧米言語文化専攻と中国言語文化専攻の二つの専攻からなり、中国および欧米言語文化圏への理解を深め、日本語・日本文化への理解を得るために、比較文化研究の講座をとおして広い知識を取得し、言語習得能力のみならず、文学・文化・歴史を理解し、国際社会のなかで活躍できる、教養ある有益な人材育成をめざします。

大学院博士後期課程においては、博士前期課程で得た知識をもとに、三か年の課程のなかで博士論文を著すに足る研究能力を身につけ、最終的には論文執筆をめざします。また博士前期課程並びに博士後期課程では、学問に再び取り組み、人生の再出発を望む社会人に広く門戸を開き、受けいれています。

<欧米言語文化専攻>

博士前期課程：「英語教育・英語学」「英米文学・英米文化」「スペイン語圏言語文化」「比較言語文化」の4コースをもうけ、専攻する分野の学問に関して、必要にして十分な専門知識を修得できるようカリキュラムを設定しています。いずれのコースを専攻しても、他のコースの科目を履修することが可能で、専攻分野の研究を深めつつ、幅広い知識を修得することができます。また、欧米および日本の言語・文化・歴史に関してさらなる研究を望む学生に対しては、博士後期課程への進学が可能な知識や語学力を身につけることができるように講義を展開するとともに、とくに英語教育の分野では、中学校や高等学校における教職経験者に、最新の英語教育法を教授することをめざしています。

博士後期課程：博士後期課程に関しては、欧米および日本の言語・文化・歴史の各分野における最新の知識を吸収しながら、自立した研究者にふさわしい能力と教養を身につけ、最終的には、講義・討論・指導をとおして学位論文作成をめざします。

<中国言語文化専攻>

博士前期課程では、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野に関する専門的知識、研究能力、中国語運用能力を身につけるためのカリキュラムを設定しています。言語系では、現代中国語に関する意味論、統語論、及び社会言語学上の諸問題に関する講義科目・演習科目が置かれています。歴史・文化系では、中国の近世、近代における歴史、社会、思想、文学、大衆芸能の各分野に関する講義科目・演習科目が置かれています。

演習科目では、個別の専門領域における研究能力を身につけるため、指導教授による指導が行われます。

講義科目では、個別の専門領域における専門的知識・中国語運用能力・国際的に通用する研究方法を体系的に身につけることをめざします。また、中国以外の東アジア地域の言語、歴史、文化に関する専門的知識を身につけるための関連科目も置かれています。

これらの科目を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を、修了年次に修士学位論文として提出することが求められます。2年次に論文計画書の提出、論文中間報告会での発表、語学認定試験の受験が求められます。修士学位論文作成に際しては、指導教授以外に従たる指導教授からも論文指導を受けることが可能です。提出された修士論文に関しては、主査および審査委員2名による審査、公開の口頭試問が行われます。

※修士論文作成・審査のプロセスに関しては、「博士前期課程 学修の流れ」を参照して下さい。

博士後期課程では、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野における研究者、あるいは専門的な知識を活用する職業人として相応の高度な専門的知識、研究能力、中国語運用能力を養うため、以下のような科目が置かれています。

演習科目では、個別の専門領域における研究者として十分な研究能力を身につけるための、指導教授による指導が行われます。

講義科目：個別専門領域について、研究者として必要な高度な専門的知識・専門的な中国語運用能力・国際的に通用する研究方法を体系的に身につけることをめざします。

これらの科目を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を、修了年次に博士学位論文として提出することが求められます。2年次に論文中間報告会での発表、3年次に論文計画書の提出、論文予備審査、語学認定試験の受験が求められます。博士学位論文の提出に際しては、審査の主査（指導教授）と審査委員4名（学外審査委員1名を含む）から成る審査委員会が審査にあたり、口頭試問、および学外にも公開された公聴会が行われます。

※博士学位論文作成・審査のプロセスに関しては、「博士後期課程 学修の流れ」を参照して下さい。

学修の流れ

博士前期課程 学修の流れ

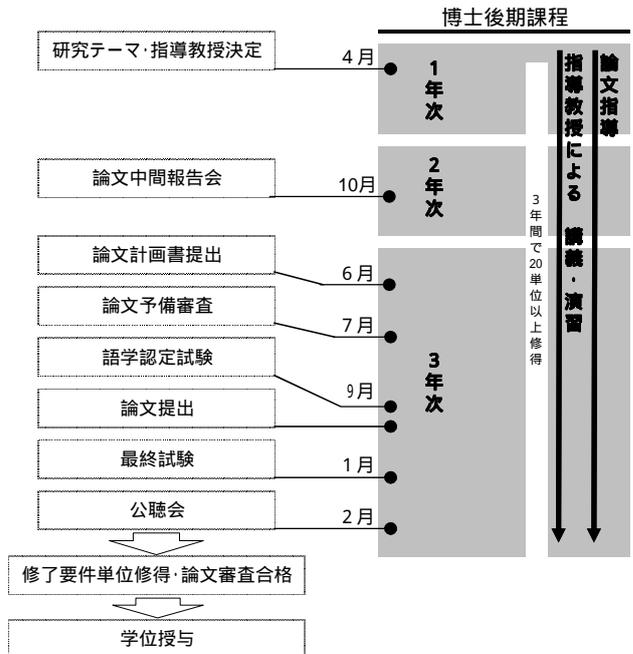
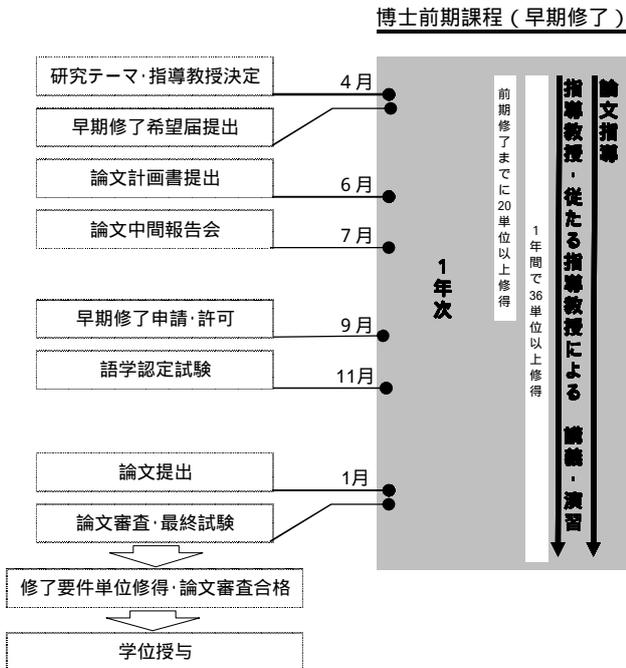
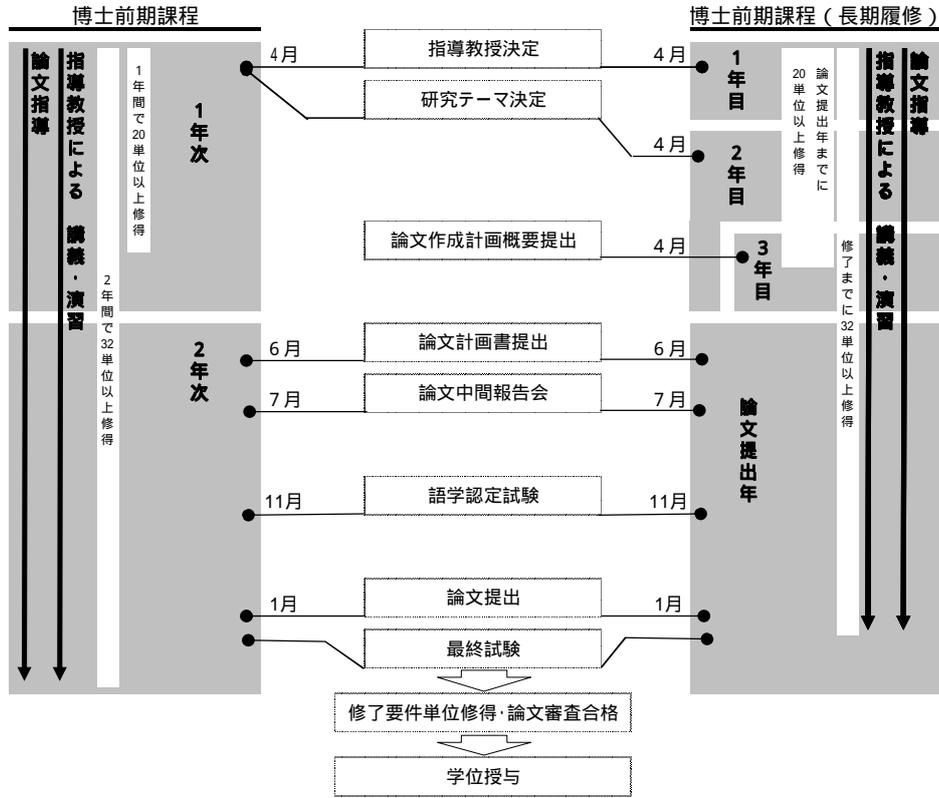
学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		各自の研究テーマ・指導教授を決定する。		
	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授] 講義履修(4 単位) [指導教授] その他の科目履修(12 単位以上)	指導教授の演習科目を含めて 20 単位以上修得する(論文提出要件)
2 年次	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	・2 年次修了までに 32 単位以上の修得が必要 [指導教授の演習 8 単位・指導教授の講義 4 単位を含む] (修了要件) ・修了見込証明書発行基準: 2 年次に在学し 20 単位以上を修得している
			その他の科目履修(8 単位以上)	
	6 月	論文計画書を提出する		論文タイトルと概要を提出する
	7 月	論文中間報告会で発表する		
	11 月	語学認定試験を受験する		(論文提出要件)
	12 月	論文提出準備		作成要領をもとに準備する 修士論文審査員(主査・副査)が決定される
		1 月	論文提出 最終試験	主査・副査により口述試験が実施される
3 月	学位授与式			

早期修了者・長期履修者は、次ページの「学修フローチャート」を参照して下さい。

博士後期課程 学修の流れ

学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		各自の研究テーマ・指導教授を決定する		
	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授] 講義履修(4 単位) [指導教授] その他の科目履修	
2 年次	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	
			その他の科目履修	
	10 月	論文中間報告会で発表する		
3 年次	4 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	3 年間で20単位以上修得する(指導教授の演習12単位・指導教授の講義 4 単位を含む) (修了要件)
			その他の科目履修	
	6 月	論文計画書を提出する		論文タイトルと概要を提出する
	7 月	論文予備審査		提出前に審査が行われる 博士論文審査員(主査・副査)が決定される
		論文提出準備		作成要領をもとに準備する
	9 月	語学認定試験を受験する 論文提出		(論文提出要件)
	1 月	最終試験		主査・副査により口述試験が実施される
2 月	公聴会			
3 月	学位授与式			

外国語学研究所 学修フローチャート



成績評価について

1 科目試験について

秀	90点以上	所期の目標を十分に達成し、特に秀でた成績を示している。	合格
優	80点以上	所期の目標を十分に達成し、優れた成績を示している。	合格
良	70点以上	不十分な点があるが、所期の目標をほぼ達成している。	合格
可	60点以上	所期の目標の最低限は満たしている。	合格
不可	60点未満	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない。	不合格

2 論文試験について

修士論文評価基準

- ①当該研究領域における修士としての必要な知識を修得し、必要に応じて当該研究領域における問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けているか。
- ②申請された学位に対して研究テーマの設定が妥当なものであるか、論文作成に当たって、そのテーマを踏まえた明確な問題意識を有しているか。
- ③論文の記述（本文、図、表、引用、文献リストなど）が適切かつ十分であり、明瞭にして一貫した論理構成を備え、明確かつ妥当な結論を得ているか。
- ④設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法（調査、実験、論証など）が採用され、論文ではそれに則った具体的かつ的確な分析或いは考察がなされているか。
- ⑤外国語文献読解や外国における調査を踏まえた論文については、外国語の解釈、運用が的確であるか。
- ⑥当該研究領域において、理論的或いは実証的な見地から、一定レベル以上の水準に達しているか。

博士論文評価基準

- ①研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の各分野において活躍しうる高度の研究能力と豊かな学識が身に付いているか。
- ②適切なテーマ設定が行われ、明確な問題意識に基づき、的確な方法によって研究がなされているか。
- ③学術論文として明確かつ緻密な論理性を備えるとともに、学術論文にふさわしい記述方法が選択され、かつ明瞭にして妥当な結論が得られているか。
- ④当該研究領域において、論文は一定レベル以上の水準に達しているか。
- ⑤当該研究分野において何らかの貢献をなしたか、又は新たな知見を付け加えることができたか。
- ⑥当該研究領域において論文は独創的なレベルに到達しているか。